

深植えによるエビイモの増収技術

農業総合研究所

要旨

エビイモの植え付け時に、慣行より15cm深い「深植え」とし、有機化成肥料を株元に施用することにより、地上部の生育が促進され、イモの肥大が早くなり増収する。さらに、土入れ時に動かす土の量が少なくて済み、秀品率が向上する。

成果の概要

うねの肩から20cmの深さに植える「慣行植え」に対し、「深植え」ではより深く35cmの位置に植え付ける（図）。

植付け位置が深いため全層施肥した基肥が株元に十分届かない場合があるので、基肥の内、窒素として5 kg/10a分の有機化成肥料を植付け時に株元に施用し、以後の追肥は「慣行植え」と同様に行う。

深植えでは、植え付け後の風の影響が軽減され土壌水分が高く維持されるため、地上部の生育が早くなり増収する。さらに、土入れ時に動かす土の量が少ないため省力的で、土入れが適切に行われるため、秀品率が向上する（表）。

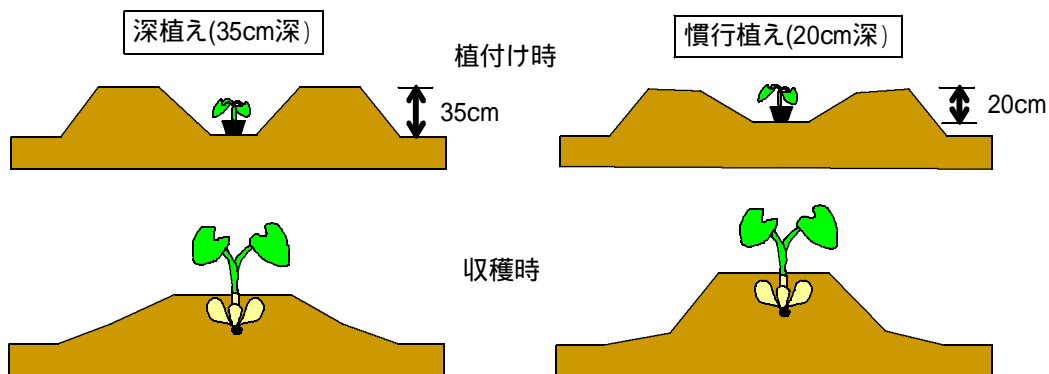


図 植付け深さと収穫時の深さ

表 植付け深さが生育と収量に及ぼす影響

植付けの深さ	7月30日の草高		収量 (対比)	規格別の収量 (kg/10a)					秀品率	
	親	子		秀	丸	長	セミ	細		
	cm	cm	kg/10a	%						%
深植え	80	42	2465	129	843	660	369	545	48	34
慣行植え	63	36	1916	100	198	841	422	422	33	10

(問合せ先 : Tel . 0772-22-6492)